



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

Title	協働による高校家庭科における消費者教育の授業開発(本文 (Fulltext))
Author(s)	大藪, 千穂; 亀山, 貴美子; 泉谷, 徹
Citation	[中部消費者教育論集 = Journal of Chubu consumer education] vol.[15] p.[25]-[37]
Issue Date	2019-09
Rights	
Version	出版社版 (publisher version) postprint
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/88890

この資料の著作権は、各資料の著者・学協会・出版社等に帰属します。

資 料

協働による高校家庭科における消費者教育の授業開発

Development of Teaching Plans of Consumer Education with Collaboration for Home Economics at High School

岐阜大学	大藪	千穂	Chiho Oyabu
岐阜高校	亀山	貴美子	Kimiko Kameyama
名古屋大学（院）	泉谷	徹	Toru Izutani

キーワード

授業開発, 協働, 高校家庭科, スマートフォン(スマホ), インターネット(ネット)

要旨

本論文では、高校家庭科の消費生活に関わる 6 時間の授業について、スマートフォンによるネット利用を軸とし、情報の 3F の視点を組み込んだ授業案を高校教員、大学教員、そして弁護士とともに協働で開発した。これは高校生においてスマートフォンによるネット利用に関連したトラブルが増加していることや、成年年齢引き下げが直前に迫っており、今後消費者被害が高校生で増える予想されることが背景にある。授業案としては、①スマホ版「人生設計ゲーム」を用いた人生にかかる費用の理解、②家計構造とキャッシュレス社会でのお金の管理、③大学の費用と奨学金、ネットでのクレジットカード利用等の負債の管理、④スマホによる契約と消費者被害救済、⑤消費者契約法とネットでの消費者市民への行動、⑥ネット購入と SDGs の視点、の 6 つを開発した。

I. はじめに

成年年齢引き下げが 2022 年に近づく中、高校生を対象とした消費者教育の重要性について関心が高まっており、授業実践も活発化している。筆者はこれまでも、中学校の家庭科と社会科、高校の家庭科と公民科との連携による消費者教育の授業実践を行ってきた(大藪 2019, 横山・大藪 2019)。

近年のキャッシュレス決済の急速な普及(経済産業省 2018)や、高校生のほぼ全員がスマートフォンを携帯している(日本スマートフォンセキュリティ協会啓発事業部会 2019, 総務省 2017)状況の下、ゲーム依存、ゲームによる課金、SNS やブログを通じた買物、契約等の問題が多発している(国民生活センター 2019)。高校生を対象としたスマートフォンの利用に関する教育は、動画や個人情報に関することは実施されているが、消費者教育として契約等に関する教育に関しては広がっていない。今回授業実践する高校生は、8割が一日に一回はネットニュースを見ており、約半数が買うつもりではなく、ネットで商品をチェックしている。また友人とのライン等の写真は8割が残しており、ネットと密接につながった毎日を過ごしている。一方、キャッシュレスに半数が関心を持っているが、それで

買物をしている生徒は1割強となった。そして成年年齢引き下げと消費者被害のことを理解している生徒は1割にとどまった。

このような背景のもと、本研究では、家庭基礎を勉強する高校生に対する消費生活に関する学習において、スマートフォンによるネット利用を通じた消費生活を軸に据え、身近なスマートフォンと関連した消費生活の授業構成を考えることとした。使用する教科書は「新家庭基礎 21」(実教出版)である。授業案を開発するのは、第5章「消費社会を生きる」の以下の6時間分の授業である。①自立した生活に必要なお金の管理とは?～暮らしに必要なお金1～(スマホ版「人生設計ゲーム」で人生にかかる費用の理解), ②自立した生活に必要なお金の管理とは?～暮らしに必要なお金2～(家計構造とキャッシュレス社会でのお金の管理), ③「金融自由化」の中でのお金の管理～貯蓄・負債と家計管理とは?～(大学の費用と奨学金, ネットでのクレジットカード利用等の負債の管理), ④「商品を買う」とはどういうこと?, 消費の際に巻き込まれるトラブルとは?(スマホによる契約と消費者被害救済), ⑤消費者としての自立とは?(消費者契約法とネットでの消費者市民への行動), ⑥環境と公正を考えた消費とは?(ネット購入とSDGsの視点)。

本研究のもう一つの特徴は、「協働」による授業開発と実践である。全ての授業案は高校教員と大学関係者とで開発した。また契約や成年年齢引き下げに関しては、専門家の情報提供によって授業案を作成することが有効である。ここで重要なのは、単に専門家がある1つの単元を担当するのではなく、高校の家庭科の教員、大学教員と専門家が授業内容と方法をディスカッションしながら開発することである。これにより、高校教員は現在起きている問題の認識が高まり、大学教員と専門家は高校生の現状を知ること、互いに現状をどのように教えていくことが最も効果的であるかを考えることが可能となる。本研究では成年年齢引き下げと契約、奨学金に関しては弁護士に加わってもらうこととした。

II. 方法

全ての単元(各1時間)で、できるだけスマートフォンやネットとの関わりから授業案を作成することとした。スマートフォンでの情報収集と発信の方法, 買い方, 契約, 支払い, 消費者トラブルと解決方法, 消費者市民社会への行動等である。協働で開発する消費生活に関する授業案は、全ての単元で高校教員と大学関係者が議論を重ねて開発したが、③「金融自由化」の中でのお金の管理とは?～貯蓄・負債と家計管理～と、④「商品を買う」とはどういうこと?, 消費の際に巻き込まれるトラブル, においては、弁護士と協働した。

全ての単元のねらいは、成年年齢引き下げにより、自立した消費者として契約主体となるに足る知識を身に付け、意思決定の重要性を理解し適切な判断力を養い、自立した消費者として情報を活用し、適切な意思決定に基づいた行動ができ、情報化社会において消費者市民社会及び持続可能な社会への指向性を身に付けることである。生徒の学習活動における評価規準として、①関心・意欲・態度, ②思考・判断・表現, ③技能, ④知識・理解, ⑤評価方法, の6つを設定した。

授業実践を行う高校は、岐阜市にある県立の受験校であり、1学年は9クラスである。授業前に情報活動に関するアンケート, ライフスタイルに関するアンケート, 授業内容に関するアンケートを実施し、生徒の情報に対する態度, ライフスタイル, 消費に対する態度を明らかにすることにした。授業実践をするにあたって、スマートフォンによるネット

利用を軸としながら、情報(教育)として重要な3F(Freshness, Fun, Freedom)の視点(杉原2001, 大藪2014)を取り入れた。

Ⅲ. 結果

1. 自立した生活に必要なお金の管理とは？(全3時間)

(1) 暮らしに必要なお金1

～スマホ版「人生設計ゲーム」を用いた人生にかかる費用の理解～

まず「自立した生活に必要なお金の管理とは？」の導入的授業を組んだ(資料1)。この単元のねらいは、生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや後で学習する社会保障制度などに関連づけて考察することができるようにすることである。ここでの学習活動には、生活全体を確認することができるように、筆者が開発したスマホ版「人生設計ゲーム」を用いて人生設計を行う(二木・大藪2018)。「人生設計ゲーム」は、紙媒体でも可能であるが(大藪・奥田2015a,b,2016a,b)、スマートフォン用のゲームを用いることで、生徒同士が双方向にコメントを書き込めるので、生徒の結果や意見を情報交換することが可能となる。授業ではスマートフォン上の情報の取り扱いにも注意を行い、他者に対するコメントの書き方も指導する。この授業では、情報としての3F(Freshness, Fun, Freedom)がゲームに備わっている。学習活動における評価規準としては、①関心・意欲・態度では、ゲームに積極的に取りくめたか、②思考・判断・表現では、将来の生活設計について、ライフステージや社会保障制度と関連づけて考察することができるか、③技能では、スマートフォンを用いながら、自分の理想とする将来の生活設計(ライフプランと資金計画)を立てることのできるか、④知識・理解では、生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について理解できるか、で評価する。

(2) 暮らしに必要なお金2

～家計構造とキャッシュレス社会でのお金の管理～

本単元(資料2)のねらいは、家計構造について理解すること、収入と支出のバランスを考えながら、自分たちの生活を振り返ることができる、キャッシュレス社会の中で、どのようにお金を管理・運用していくとよいか考えることができる、の3点である。この授業では、特にスマートフォン等を用いたキャッシュレス社会のメリットとデメリットについて考える。学習活動としては、生活に必要な費用について考える、収入と支出のバランスについて自分たちの生活を振り返る、キャッシュレス社会における多様な購入・支払い方法のメリットとデメリットを考え、適切なお金の管理とその運用について考えることとした。情報の要素としては、Freshnes(新鮮さ)とFreedom(自由)が含まれている。学習活動における評価規準としては、①家計の仕組みに関心を持てたか、キャッシュレス社会の現状に関心があるか、②キャッシュレス社会における多様な支払い方法のメリットとデメリットと適切なお金の管理が理解できるか、③キャッシュレスの仕組みがスマホを例として使えるか、④生活の基盤としての家計の構造、家計における収支バランスの重要性についての理解できるか、とした。

(3)「金融自由化」の中でのお金の管理とは？～貯蓄・負債と家計管理

～大学の費用と奨学金，ネットでのクレジットカード利用等の負債の理解～

本単元(資料3)のねらいは，貯蓄と負債の意味を理解し，様々な金融商品やローンについて知る，クレジットカードが負債であることを知る，将来適切なお金の管理と運用ができる力を養うことである。本授業は，授業案作成時から弁護士と協働している。学習活動としては，大学4年間にかかる費用とそれをどのように貯めるとよいかを考えることを通して，貯蓄の必要性について理解し，奨学金返還期間と返済額の事例から，身近な負債について金融商品を利用することの注意点を考え，またスマートフォンを用いたゲーム時の課金や商品購入時のクレジットカードの利用は，負債(借金)であるという視点を理解し，将来適切なお金の管理と運用ができるようにする。弁護士には，特に奨学金返還に関する問題となった事例を紹介してもらい，どのように解決したか，奨学金における問題提起と，負債としてのクレジットカードとの返済との違いについても言及する。情報の視点としては，Freshness(新鮮さ)とFreedom(自由)が組み込まれている。評価規準は，①奨学金という身近な問題に関心を持ち，弁護士の話を聞けたか，クレジットカードが負債である点に関心を持てたか，②奨学金返還期間と返済額の事例から，金融商品を利用することの注意点を考え，将来適切なお金の管理と運用を考えることができたか，③利息計算ができたか，④貯蓄と負債の意味と，さまざまな金融商品やローンについてその特徴を理解できたか，である。

2.「商品を買う」とはどういうこと？，消費の際に巻き込まれるトラブルとは？

～スマホによる契約と消費者被害救済～

本単元(資料4)のねらいは，契約の仕組みとその重要性を特に成年年齢引き下げとの関係から理解すること，消費者被害の構造，消費者被害救済の仕組みについて知り，トラブルの解決方法について理解することである。本単元も弁護士との協働授業である。学習活動としては，岐阜県が発行している高校家庭科の副読本である「おっと落とし穴」の契約クイズを通して，契約の仕組みを理解する，消費者被害の構造と被害救済の仕組みについて理解する，実際のトラブル事例を用いて，自分ならどのようにアドバイスするかを，特定商取引法の法律に照らして説明し，理解を深めることである。高校生はスマートフォンによって商品やサービスを閲覧したり契約(購入)する機会が多いことから，特にスマートフォンを用いた被害事例を紹介し，自分ならどのように解決するかをグループで考える。また成年年齢引き下げによって，契約に関わる被害が急増することを示し，成年年齢引き下げの意味について理解する。弁護士から，実際はどのように解決したか，法律を用いた解決方法についての見識を得ることとする。情報の視点としては，Freshness(新鮮さ)，Fun(面白さ)，である。評価規準としては，①クイズに関心を持ち積極的に考えられたか，②法律に照らし合わせてアドバイスが考えられたか，④契約の仕組みとその重要性について理解できるか，消費者被害の現状，消費者被害救済の仕組みとその必要性について理解できるか，3段階の消費者関連法(特定商取引法，消費者契約法，民法)について理解できるか，である。

3. 消費者としての自立とは？

～消費者契約法とネットでの消費者市民への行動～

この単元では消費者市民社会について学ぶ(資料5)。ねらいは、消費者の権利と責任について理解し、消費者市民社会の構築に主体的に参画しようとする態度を養うことである。学習活動としては、前回に引き続き成年年齢引き下げと契約の意味を確認後、条項に関する消費者トラブルの事例から、なぜトラブルになったのか「公正」という視点で、その原因を考え、今までの学習を生かしながらその解決方法を考える、消費者契約法についての理解を深める、どんな消費者になりたいか、今までの学習を生かしながら考える。この授業では、ネットを通じて社会を変えたファンクラブの事例を用いながら、消費者市民であるということはどういうことかを考える内容とする。特に消費者団体訴訟制度と契約書の条項の無効について、消費者契約法から学ぶ。情報の視点としては、Freshness(新鮮さ)、Fun(面白さ)、Freedom(自由)が組み込まれている。評価規準は、①ネットを通じた消費者市民社会への行動に関心が持てるか、②消費者市民社会のあり方を考えられるか、③消費者市民社会を目指して意見を表明し、行動することが消費者の責任であることを認識し、ネットを含めて行動することができるか、④消費者トラブルの事例から、消費者の行動で社会が変わるということを認識し、それが消費者の責任であることを理解できているか、すでに授業で学んだ、3段階の消費者関連法のうち、消費者契約法について理解できているか、である。

4. 環境と公正を考えた消費とは？

～ネット購入とSDGsの視点～

この単元は(資料6)、これまでの授業をベースにして、消費者市民社会の視点をもう少し広げ、環境や公正というキーワードから持続可能な消費(SDGs)を考える授業である。ねらいは、生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解する、持続可能な社会を目指して、主体的に行動できるよう、ライフスタイルを工夫することができる、である。学習活動としては、フェアトレードについて事前学習し、ネットを通じてフェアトレードの意味や問題点について学んでおく。各自チョコレートを購入するとしたら、どのようなチョコレートにするかを、店やネットで調べてきてもらい、なぜそのチョコレートを購入したかをグループで説明する。そしてチョコレートを購入する時の買物の視点を考える。また自分の消費行動が持続可能な社会へとつながっていることに気づき、持続可能な社会へ参画することの意義について理解し、行動計画をたてることができるようにする。チョコレートから貧困、生産、消費など、様々な視点に気づくことができ、SDGsの視点を授業として入れ込むことで、生徒の関心を家庭、地域、企業、国、地球規模と広げながら、自分の消費が他のシステムとつながっていることに気づくことができるようにする。情報の視点としては、Freshness(新鮮さ)、Fun(面白さ)、Freedom(自由)が組み込まれている。評価規準は、①どのようなチョコレートを友人が購入しようとしているか関心を持てるか、②持続可能な社会を目指して、主体的に行動できるよう、ライフスタイルを工夫することができるか、④生活と環境との関わりや持続可能な消費(SDGs)について理解できているかである。

IV. まとめ

以上、高校家庭科の消費生活の6時間の授業案を、スマートフォンによるネット利用を軸に、成年年齢引き下げによって消費者被害に遭いやすくなる高校生を対象に開発した。また情報の視点として、3F(Freshness, Fun, Freedom)を組み込んだ授業案とした。授業開発を行うにあたって、これまでは一つの授業を開発することが多かったが、その授業の前後の授業との整合性を考えると、一つの授業案を開発するだけでは、重要な視点を生徒に伝えるには限界があった。本研究では、消費生活の全ての授業について、高校教員と専門家と議論を重ね、現在高校生が直面している問題を明らかにした。その結果、多くの問題は、スマートフォンやネットから生じていることから(消費者庁2017)、スマートフォンによるネット利用を軸とし、全ての授業にスマートフォンに関連する内容を入れ込んだ授業案を開発することとした。このことにより、生徒が家庭科に関心を持ち、また現在起こっている経済や環境問題を自分事として考えるやすくなると考えられる。今後は、この授業案をもとに、9クラスに対して、授業実践を行い、その効果について明らかにしていきたい。

参考文献

- 大藪千穂(2014),「情報活動を基盤とした消費者教育の実践ー契約とクーリング・オフ制度ー」『消費者教育』, 第34冊, pp.175-183
- 大藪千穂・奥田真之(2015a),「「人生設計ゲーム」を用いた金融経済教育」『生活経済学研究』, 第41巻, pp.45-53
- 大藪千穂・奥田真之(2015b),「金融経済教育における「人生設計ゲーム」の開発・実践と「消費者教育体系イメージマップ」の検証」『消費者教育』, 第35冊, 11-22
- 大藪千穂・古川由香子・奥田真之(2016a),「「人生設計ゲーム」のボード記述からみるライフプランの意思決定分析」『岐阜大学教育学部研究報告 教育実践研究』, 第18巻, pp.119-132
- 大藪千穂・奥田真之(2016b),「地域金融機関との連携による金融経済教育の開発と実践ー「人生設計ゲーム」の教育効果と地域貢献ー」『生活経済学研究』, 第43巻, pp.65-75
- 大藪千穂(2017),「中学校・高等学校から学ぶ多様な主体による消費者主権者教育の実践ー家庭科と社会科の融合ー」『消費者教育研究』, 188号, pp.11-13, 公益財団法人消費者教育支援センター
- 二木恵・大藪千穂・鈴木雅弓(2018),「人生設計ゲーム Web アプリケーション版の開発と授業実践」『中部消費者教育論集』, 第14巻, pp.17-29
- 大藪千穂(2019),「高等学校家庭科と公民科における消費者市民教育と主権者教育の連携」『消費者教育』第39冊, pp.31-41
- 金融広報中央委員会(2016), 金融リテラシー調査平成28年
https://www.shiruporuto.jp/public/document/container/leteracy_chosa/2016/.
(参照日 2019.7.6)
- 経済産業省(2018), キャッシュレスビジョン,
<http://www.meti.go.jp/press/2018/04/20180411101/20180411001-1.pdf>
(参照日 2019.1.30)

国民生活センター(2019), 相談事例と解決結果,

<http://www.kokusen.go.jp/retzsearch/search>(参照日 2019.6.30)

消費者庁(2017)若者の消費者トラブルの現状,

https://www.caa.go.jp/future/project/project_001/pdf/project_001_171004_0005.pdf

杉原利治(2001), 『21世紀の情報とライフスタイルー環境ファシズムを超えてー』, 論創社

総務省(2018), 「平成 29 年通信利用動向調査報告書」(2018 年 6 月 22 日訂正),

http://www.soumu.go.jp/jhgotsusintokei/statistics/data/180525_1.pdf(参照日 2019.2.26)

日本スマートフォンセキュリティ協会啓発事業部会(2019), 中高生スマホ利用傾向調査レポート 2019 年 2 月版,

https://www.jssec.org/dl/UsageTrend_ResearchReport_MiddleSchoolStudent_20190322.pdf(参照日 2019.8.10)

文部科学省(2016), 文部科学省における金融経済教育の取り組みについて,

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/saimu/dai04/siryou7.pdf>(参照日 2019.7.6)

横山真智子・大藪千穂(2019), 「中学校技術・家庭科における消費者市民教育の実践」『消費者教育』第 39 冊, pp.211-220

資料1 自立した生活に必要なお金の管理とは？ ①暮らしに必要なお金1 学習指導案

単元名		第5章 消費社会を生きる 4 自立した生活に必要なお金の管理とは？		
本時の主題		ライフプランとその資金計画（生活設計）		
指導観		自立した個人が行う合理的な意思決定の技術を身に付けることが、成熟した社会、持続可能な社会の構築に寄与するという消費者教育の視点から授業を考えた。Web 上で行う「人生設計ゲーム」は、1時間という限られた時間の中で、他者と比較し、相互評価し、それに基づいて改善していくという作業を経て、生徒の考えが変容し、深い学びへとつながる。授業の前で「人生においていくらくらいかかるのか」の説明をスライドで説明をし、予備知識を得た状態でゲームに取り掛かることで、生徒が考えを深められるよう工夫した。		
本時の目標		・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージや社会保障制度などと関連付けて考察することができる。		
過程	指導内容	生徒の学習活動	評価について	教師の指導
導入 10分	目標 人生にかかるお金の説明	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の目標を確認する。 ・ライフプランとその資金計画 ・人生においていくらくらいかかるのかについて、スライドを通して理解し、自分のライフプランに役立てる。 		前時に「どんな人生と送りたいか」考え、人生設計をたてさせる。
展開 45分	<p>自分の人生を設計する。 1回目の人生設計をする。</p> <p>相手の意見を反映させ、自分の人生を再び考える。 2回目の人生設計をする。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>1 自分の夢が実現するように、人生を設計しよう（スマホ版「人生設計ゲーム」スタート）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・結婚、出産、働き方等によって、発生する金額が異なることに気付く。どれを選択するかで資産残高が変わってくることに付き、よく考えてライフイベントを選択しなければいけない。 ・働き方によって収入に大きな差が出る。 ・教育費・住宅費・老後の生活費にお金がかかる。 ・学費や住宅、車、など大きな金額のものに対しては、かかる費用や買うタイミングを考える必要がある。 ・保険に入るべきか悩む。 ・人生には病気や災害など、突然起こる選択不可能なライフイベントもある。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>2 自分の人生について反省する。 3 同じグループの生徒の結果について、コメント投稿欄にコメントを書く（ネット上の情報）。 4 グループ内のコメントを反映させ、2回目の人生設計ゲームを行う。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・確定残高を気に留めながら人生設計を行う。 ・1回目の人生に対する反省を改善することで、家計資産の運用がうまくいった。 ・もっと違った生き方や、人生の選択を視野に入れて2回目の人生を作る。 <p>※2回目は自分や友達に対するコメントをしない。</p>	<p>評価規準【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の理想とする将来の生活設計（ライフプランと資金計画）を立てることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○将来の生活設計について、ライフステージや社会保障制度などと関連付けて考察することができる <p>＜評価方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習プリント・発表内容、態度 ○働き方で収入に大きな差ができることに気付いた。また、友達のような生き方もあると知った。 ○学費や住宅、車、など大きな額の者に対しては、費用や買うタイミングを考える必要がある。 ○病気や災害など予期せぬトラブルを避けるためにも保険や貯蓄は必要だと思う。 ○老後は収入より支出が上回り、若いうちに老後のことを考えて行動したい。 ○長期の視野に立つこと、自分だけでなく、家族のことを考えて行動することの大切さを知った ○生涯を見通して、経済の管理をしていく大切さに気付いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人生設計ゲームの説明をする。 <p>＜B を実現するための指導＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人生設計について、他者から意見をもらうことで、気付かなかったことに気付かせる。 <p>＜C への手立て＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導をし、困っていることに対してアドバイスをする
まとめ 10分	<p>本時のまとめ</p> <p>・残高の確認とその理由</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>5 授業を通して気付いたこと、感じたことを学習プリントにまとめる。自己評価する。</p> </div> <p>残高がマイナスになった理由、プラスになった理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収入に見合った生活、収入と収支のバランスが大切なのだ。家計に見合った範囲で生活することの必要性、鳥瞰図的な発想や力が大切である。 ・自分の行動が将来につながるということが分かり、先のことを見通して行動することが大切である。 ・実際にはもっと支出が多いということも想像して資金運営することが大切である。 		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に気づきを発表させることで、本時のまとめをおさえる。

資料2. 自立した生活に必要なお金の管理とは？ 暮らしに必要なお金2 学習指導案

単元名		第5章 消費社会を生きる 4. 自立した生活に必要なお金の管理とは？			
本時の主題		私たちの生活とお金			
指導観		この単元においては、生活の基盤としての家計管理の重要性や家計と経済との関わりについて理解するとともに、収支バランスの重要性やリスク管理の必要性を踏まえ、将来にわたる不測の事態に備えた経済計画についても考察できるようになることを目指す。前時で人生全体にかかるお金についてとその運用の重要性を認識したので、本時では毎日の家計管理においては、キャッシュレス社会において、どんな点に留意していくとよいか考えさせることを通して、目指す姿の実現へと結び付けたい。			
本時の目標		<ul style="list-style-type: none"> ○家計構造について理解する。 ○キャッシュレス社会の中で、自分のお金の管理と運用について考えることができる。 			
過程	指導内容	生徒の学習活動		評価について	
導入 2分	前時の学習と本時の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習を振り返る。 ・生涯を見通した生活設計をすることが重要だ。 ○本時の課題「私たちの生活とお金」の確認。 			
展 開 54分	生活に必要なお金	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;">生活に必要なお金を考える。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○収入について理解する ・生活に必要なお金は就労によって成り立つことを認識する。 ○支出について理解する。 ・生活に必要なお金について考える。消費支出の10大費目を自分たちで考える。 ・非消費支出について理解する。税金や社会保険料の意義。 ・可処分所得について理解する。貯蓄の存在に気付く。 ○家計に影響を与えているものを考えよう。 ・就業形態によって年収や生涯賃金に差がつくことを理解する ・物価指数、税率なども影響している。 ○年代による支出の移り変わりから、何かいえるか考える。 ・生活スタイルの変化に気付く。 ○収入階級別家計収入と支出の表から何かいえるか考える。 ・エンゲル係数・教育費・税金などが異なることに気付く。 ・収入によって支出の内容が異なること、生活スタイルが変わることに気付く。 ○自分たちの家庭生活と支出の仕方について振り返る。 ・教育費やスマホ代金の支出について気に留める。 ・収入と支出のバランスが大切、家計管理の重要性に気付く。 		<p>評価規準【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家計の構造・家計における収支バランスの重要性について理解する。 <p>＜評価方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習プリント ・学習態度 <p>Aの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可処分所得や非消費支出の分析など、具体的な事例を通して家計の構造を理解している。 ・高校卒業後の進路や職業も含めた生活設計の重要性について認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収入と支出について説明する。 ＜Bを実現するための指導＞ ・私たちの生活を振り返り、消費支出にあたるものを考えさせる。 ・社会保障については、後日「租税教室」で詳しく学習することを知らせる。
	収入と支出の管理	キャッシュレス社会における収入と支出の管理	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-bottom: 10px;">キャッシュレス社会とお金の管理</div> <ul style="list-style-type: none"> ○自分のお財布にいくらあるかな？どんな買い物をしているかな？家計簿つけている？カードやスマホ決済をしている？ ○キャッシュレス社会でのメリット・デメリットを考えよう。 ・キャッシュレス決済のいろいろなサービス（クレジットカード・電子マネー・QRコード払い等）の仕組みを知る。 ・普及拡大は店舗の省力化やコスト削減につながる。 ・履歴が残るので支出を的確に把握・管理できる。 ・現金のメリットと合わせて考える。 ・海外では多くの国・地域でキャッシュレス決済が普及していることを知る。 		<p>評価規準【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報化、グローバル化などの社会変化、それに伴うキャッシュレス社会という状況の中でどのようにお金を管理したらよいか、考えることができる。 <p>＜Aの例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュレス決済と現金のメリット、デメリットを総合的に考え、自己管理の重要性に気付くことができる。
まとめ 4分	まとめ	○私たちの生活とお金について、本時の感想をワークシートにまとめる。			

資料3. 「金融自由化」のなかでのお金の管理とは？ 貯蓄・負債と家計管理 学習指導案

単元名		第5章 消費社会を生きる 4 「金融自由化」のなかでのお金の管理とは？		
本時の主題		貯蓄と負債について考える		
指導観		この単元においては、生活の基盤としての家計管理の重要性や家計と経済との関わりについて理解するとともに、収支バランスの重要性やリスク管理の必要性を踏まえたうえで、将来にわたる不測の事態に備えた経済計画についても考察できるようになることを目指す。前時において、自分のライフプランの実現のために、毎日のお金の管理の重要性について学習したので、本時では働いて得たお金を適切に貯蓄・運用することの重要性を理解することを通して、将来適切なお金の管理と運用ができるようにしたい。		
本時の目標		<ul style="list-style-type: none"> ・貯蓄と負債の意味を理解し、さまざまな金融商品やローン、クレジットカードについて知る。 ・将来適切なお金の管理と運用ができる力を養う。 		
過程	指導内容	生徒の学習活動	評価について	教師の指導
導入 5分	前時の学習と本時の課題	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習を振り返る。 ・まとまったお金はどのように確保するとよいか？ ・収入（勤め先収入）を増やす。支出を減らす、貯蓄する。 ○本時の目標「貯蓄と負債について考える」 		
展 開 50 分	貯蓄と負債	<p>大学進学や大学生活にかかる費用をどうやって準備したらよいだろうか。</p> <p>○交流しながら貯蓄について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな時に貯蓄が必要か考える。緊急時に備えた貯蓄、老後の生活資金、教育費などに貯蓄が必要である。 ・預貯金、学資保険、株式、債券、投資信託などがある。 <p>○交流しながら負債について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人に借りる。クレジットカードやローンを利用したらどうか。 <p>18年間で大学にかかる費用を準備するとしたら、毎月いくら貯金しなければならないか。</p> <p>○自分が行きたい大学に必要な経費を調べ、毎月の貯金額を計算する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国公立大学でも毎月2万円ほど貯める必要がある。 ・教育費が家計に与える影響の大きさに気付く。 ・金融商品を利用することもできることに気付く。 ・学資保険（銀行から借りる）、公的教育ローン、奨学金という方法がある。これらは借金だから返す必要がある <p>奨学金の返還期間と返済額の事例から、金融商品を利用することの注意点を考える。</p> <p>○専門家（弁護士）の先生による説明から、奨学金について理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貸与型・給付型があることを知る。 ・借りた場合の返還総額と回数のグラフから、3%の利息だと20年後に返還総額が200万円膨らんでいることを知る。 ・20年後の自分の年齢と生活状況を想像し、返済可能か不安になる。 ・奨学金は負債であり、社会人になった段階ですでに借金があるということなのだ。 <p>○実際の奨学金返済のトラブルの事例から、運用するときの注意点を、隣同士で意見交流し、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利息をよく考えなければならない。 ・長い目で見てしっかりした返済計画を立てなければならない。 ○クレジットカードは借金であることを理解する。 	<p>評価規準【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○貯蓄と負債の意味と、さまざまな金融商品とローンについて理解する。 <評価方法> ・学習プリント ・学習態度 <Aの例> ・貯蓄については預貯金、学資保険、株式、債券、投資信託という方法があることを理解する。 ・学資保険や公的教育ローン、奨学金などは負債であり、借金だから返す必要があることを理解する <p>評価規準【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○奨学金の返還期間と返還額について理解し、金融商品を利用するときの注意点を考える。 <Aの例> ・借りる前に返還期間と返済額を確認してから借り入れたい ・多重債務について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生活や大学生活にかかる費用の資料を提示する。 「大学4年間にかかるお金（金融広報委員会）」 ・自分の進路に該当するものについて、君とみらいとライフプランの資料から算出する。 <Bを実現するための指導> ・奨学金についての説明を弁護士先生にさせていただくことで理解を深めさせる。 「おっと落とし穴」 「スライド資料」 <Cへの手立て> ・隣同士で意見交流をすることで、自分の意見を持たせる。
	まとめ 5分	本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・多種多様な金融商品について、「安全性」「流動性」「収益性」のバランスを考えて適切な意思決定をしていくことの重要性を認識する。 ・貯蓄・運用したり、必要に応じて借入などを行ったりして計画的に準備することの必要性を理解する。 	

資料4. 「商品を買う」とはということ？、消費の際に巻き込まれるトラブルとは？ 学習指導案

単元名		第5章 消費社会を生きる 6 「商品を買う」とはということ？ 7 消費の際に巻き込まれるトラブルとは？			
本時の主題		契約と消費者被害救済の仕組み			
指導観		この単元では、消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解するとともに、自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考察することが求められている。本時から3時間を通して、消費者市民社会を実現する自立した消費者になるために必要な知識や考え方を身に付けさせたい。			
本時の目標		○契約の仕組みとその重要性（成人年齢引き下げに伴う重要性）を理解する。 ○消費者被害の構造、消費者被害救済の仕組みについて知り、トラブルの解決方法について理解する。			
過程	指導内容	生徒の学習活動		教師の指導	
導入 5分	前時の学習と本時の課題	<p>○前時の学習を確認する。「消費者」とはどんな存在？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済活動をする人、物を買う人、事業者より知識がない、正しい選択をしていく人 など。 ○年齢別消費者トラブル相談件数、販売形態別相談件数のグラフから、消費者被害が発生していることを知る。 ○成人年齢引き下げにより、契約や消費者問題について理解を深める必要性を感じる。被害が拡大していく危険について知る。 ○本時の学習の確認「契約と消費者問題」 		<p>評価について</p>	<p>教師の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おっと落とし穴の資料、成人年齢引き下げについての新聞記事を提示する。
展開 50分	<p>契約とは</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 契約って何？ </div> <ul style="list-style-type: none"> ○スライドによる契約の○×クイズから、契約の基本的な仕組みを知る。 ・契約は法的な約束、成立したら責任と権利が生じる。一方の都合でやめることはできないのだ。 ・未成年者取消権について知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> 消費者被害救済の考え方について知ろう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○どんな時でも契約は守らなければいけないのか？ ○消費者被害の構造、消費者被害救済の仕組みとその必要性について理解する。3段階の消費者関連法について理解する。 ・消費者と事業者の間には情報量などに格差があり、自立した消費行動をとるためには、さまざまな支援や仕組みが必要である。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> 特定商取引法について知ろう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○①訪問販売 ②通信販売 ③電話勧誘販売 ④連鎖販売取引 ⑤特定継続的役務提供 ⑥業務提供誘引販売取引 ⑦訪問購入 ⑧送り付け商法 についてスライドを通して説明する。訪問販売の特徴（不意打ち性、攻撃性、密室性）を伝える。 ・説明をもとにして、スマートフォンを用いたトラブルの事例について、どの商法にあてはまるのかを、隣同士で意見交流しながら考える。 ・クーリングオフ期間は8日と20日のものがあり、商法の特徴によってどちらの期間が適切か考えながら理解する ・通信販売は自分から申し込みをしているので、クーリングオフできないことを理解する。 ・最近被害の多いアフィリエイトについて知る。 ○弁護士から消費者被害救済の法的方法を伝える。 ○スマートフォンを用いた契約の問題点を伝える。 	<p>消費者の権利</p> <p>消費者を守る仕組み</p> <p>さまざまな消費者トラブル</p>	<p>評価規準【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○契約の基本的な仕組みについて理解する。 ○消費者被害の構造・消費者被害救済の仕組みとその必要性について理解する。 ○3段階の消費者関連法のうちの、特定商取引法について理解する <p><評価方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習プリント ・学習態度 <p><Aの例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約の原理から、消費者保護の必要性について理解する。 ・成年年齢引き下げで未成年者取消しができなくなる。自分で意思決定できることが増えるのと同時に、自らの行動に責任が伴うのだ。 ・消費者問題発生の社会的背景からその必要性を理解する。 ・事業者としては、良い商品を提供しないと、無条件に解約されてしまうのだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・契約の原理から、消費者被害の構造、消費者被害救済の仕組みとその必要性を理解させる。 <p><Bを実現するための指導></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おっと落とし穴」の契約クイズをさせ理解を深めさせる。 ・「おっと落とし穴」で消費者の権利と消費者を守る法律について説明する。 <p><Cへの手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> ・クーリング・オフには8日、20日、できないものがありそれを分類分けして説明することで理解を促す。 ・生徒の意見を発表させ、自分の意見を持たせる。 	
まとめ 5分	本時のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○消費者の権利について理解する。 ・消費者の8つの権利を知り、消費者の権利の重要性を確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・おっと落とし穴より 	

資料5. 消費者としての自立とは？ 学習指導案

単元名	第5章 消費社会を生きる 8 消費者トラブルに立ち向かうためには？ 9 消費者としての自立とは？			
本時の主題	消費者市民社会			
指導観	消費者問題の解決方法を考える活動を通して、問題を解決することは自己救済だけでなく、消費者市民社会の形成につながることを、社会を変革する力を消費者は持っているのだということに気付かせるとともに、それは私たちの責任だということを理解させたい。この単元を通して、自立した消費者になるために必要な知識や考え方を身に付けさせたい。			
本時の目標	・消費者の権利と責任を理解し、消費者市民社会の構築に主体的に参画しようとする態度を養う。			
過程	指導内容	生徒の学習活動	評価について 教師の指導	
導入 3分	○前時の学習 本時の課題の確認	○前時の学習の確認 ・消費者の8つの権利を振り返る。 ・3段階の消費者関連法について（特定商取引法、消費者契約法）を振り返る。 どんな消費者になりたいか、考えよう。	・前時のスライドをもう一度提示する。	
展 開 52分	消費者トラブルの事例から、解決方法を考える。 消費者が行動することの意味 消費者の権利と責任	Q1. 消費者トラブルの事例（ファンクラブの事例）から、その原因と解決法を考えよう。 ○トラブルの原因とネットを通じた行動と解決方法について、消費者関連法についての知識をもとに、意見をプリントに記入する。 ＜消費者側のトラブルの原因＞ ・ファンクラブの会員規約を事前によく読んでおくべきだった。 ・ファンだったら多少のリスクを負ってしかるべきだ。 ＜事業者側のトラブルの原因＞ ・会員規約が沢山ありすぎて理解しづらい。 ＜トラブルの解決方法＞ ・特定商取引法によりクーリングオフができる事例か考える。 ・消費者センターへ被害救済のお願いをする。 ・直接事務所へメールや電話をし、思いを訴える。 ・人生の勉強だと思い、泣き寝入りする。 Q2 「公正」という視点で、なぜトラブルになったのか再考し、その解決法を考えよう。 ○グループになり意見交流し、考えた結論を発表する。 ・「おっと落とし穴」や「タブレット」を利用し、その解決法を考える。 ・契約条項をよく読んで、公正でないところを見つける。 ・クーリングオフができないので、消費生活センターへ被害救済を求めるとよいのではないか。 ・消費者契約法の「無効な契約条項」に該当することに気付く。 ○専門家の先生から消費者契約法についての説明を聞く。 Q3 なぜ「消費者の行動」が大事なのか？ スライドを通して理解する。 ・ネットを通じたファンの行動が規約を変えたことに気付く。 ・消費者問題を解決することは、消費者市民社会の形成につながることに気付く。 ・消費者の権利だけでなく、責任の意味を理解する。	評価規準【知識・理解】 ○消費者の権利と責任について理解する ○消費者関連法の3段階のうち、消費者契約法について理解する。 ＜評価方法＞ ・学習プリント ・学習態度 ＜Aの例＞ ・学習した消費者関連法の3段階を思い出し、解決する方法へと導くことができる。 【技能】 ○消費者市民社会の構築に主体的に参画しようとする態度を養う。 ＜Aの例＞ ・社会を変革させる力を私たち消費者が持っているのだ。 ・消費者市民社会を形成するには、「公正」という視点が求められている。	・消費者と事業者の間にどんな格差があったのか、トラブルの原因を十分考えさせる。 ・グループで意見を出し合い、発表することで自分の考えを深めさせる。 ・専門家の先生から消費者契約法について説明をしていただくことで、生徒の理解を深めさせる ・実際に規約を変えられたことになったジャニーズ事務所のニュースを紹介する。
まとめ 5分	どんな消費者になりたいか	どんな消費者になりたいか、考えよう ・授業の前と後で自分の変化に気付くことができる。		

資料6. 環境と公正を考えた消費とは？ 学習指導案

単元名	第5章 消費社会を生きる 10. 環境と公正を考えた消費とは？			
本時の主題	買い物の視点について考える			
指導観	消費行動の一つである買い物について考えることで、持続可能な社会を目指してライフスタイルを工夫し、主体的に行動できる力をつけさせたい。生徒らは、買い物が社会情勢や地球環境問題に関わっている、という事実について、なんとなくは知っているが、実践には十分結びついてはいない。私たちの目の前に豊かに並んだ商品の裏には、どのような物語や背景があるのか、時には少し立ち止まって想像すること、それを通して将来のあるべき世界の姿について考えること、そしてそれは私たちが作り出すんだ、ということをしっくり認識する体験が必要なのではないだろうか。買い物にはいろいろな視点があるが、社会や環境にも影響を与えるというエシカルな視点に気付かせ、その視点で商品を見つめさせたい。さらに、その理解を深めるために、社会科の視点から探求させたい。これまでの自分とこれからの自分を見つめ、消費者市民社会の形成に積極的に関わることができる力をつけさせたい。			
本時の目標	①自分の消費行動を見つめる。 ②消費者市民社会とSDGsに、積極的に関わろうとすることができる。			
過程	指導内容	生徒の学習活動	評価について	教師の指導
導入 2分	前時の復習 本時の主題の確認	<ul style="list-style-type: none"> 宿題でフェアトレードについて勉強してきている。「チョコレート、紅茶、コーヒー」について、どんな視点で買い物をしたか、自分の買い物の視点をまとめ、商品の選択をしてきている。 本時の主題を確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> 事前課題1を持ってきたか確認する。 本時の主題を確認させる
展 開 55分	買い物の視点について、説明する。	<ul style="list-style-type: none"> どんな視点で買い物をしてきたか、自分の行動を振り返り、レーダーチャートにまとめる。 買い物にはどんな視点があるか、4つの視点（おいしさ、経済性、見た目、社会・自然環境への影響）に絞り、再評価する。良かった点、改善点などを考える。 カカオのスライドを見て、チョコレートについての理解を深める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> グループになり、自分の選択した商品を発表し合う。 班の中で、評価の高かった商品について、さらにどんな視点が加わるとよいかについても考え、全体の前で発表する。 </div>	<p>評価規準【思・判・表】⑧</p> <ul style="list-style-type: none"> 消費者として、どのような視点で買い物をしたらよいか、考える。 <p><評価方法> 課題プリント1 行動観察 <Aの例></p> <ul style="list-style-type: none"> 買い物の4つの視点から、自分の買い物を評価する。 どのような視点を加えたとさらに良くなるか、考える。 <p><評価方法> 課題プリント1 行動観察 <Aの例></p> <ul style="list-style-type: none"> 買い物にはいろいろな視点があり、多角的に考えて消費し、よりよい選択をしたい。 私たちの買い物が、自然環境や社会環境に影響している。エシカルな視点で買い物をすることも大切なんだ。 	<p><Bを実現するための手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> 机間巡視をし、声をかける。 相互評価することで、自分の買い物について再考させる。 <p><Cへの手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> 教員の板書を事前課題1のプリントに記入させる。 <p>(Bを実現するための手立て)</p> <ul style="list-style-type: none"> スライドを通して理解を図る。 <p><Cへの手立て></p> <ul style="list-style-type: none"> まとめのプリントを記入する際、声をかける。
	買い物の視点について相互評価し、再考させる。	<ul style="list-style-type: none"> おいしさ→原材料、添加物、有機栽培、賞味期限、カカオの品質などの点から評価している。 経済性→価格設定の在り方などの点から考え、評価している。 見た目→パッケージや形、個包装がよいか、どんなパッケージが良いと思うか、などの点から考え、評価している。 社会、環境への影響→農業、児童労働、生産者の生活や労働環境、ライフサイクルアセスメントなどの点から考え、評価している。 その商品がどのように環境や社会に影響を及ぼしているのかについてまでは、十分には把握できていない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> 社会、環境への影響はどのように知ることができるのかな？（表示の説明をスライドで行う） </div>	<ul style="list-style-type: none"> フェアトレード、レインフォレストなど、生産者や生産者の国の持続可能性に配慮した商品を選んできている。 商品の会社のCSRの取り組みについて調べてきている。 買い物を通して、持続可能な社会を実現することにつながることを理解する。(→SDGsの視点) 私たちの消費行動は、生産者、販売者、輸入元の経済、社会、環境に具体的にどのように影響を与えているのかな？ ラベルがついている商品は本当に持続可能な社会へと結びついているのかな？事業者は本当のことを言っているのかな？ 	
まとめ 3分	本時のまとめ 次回予告	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返り、新たな自分の買い物リストを作る。 社会科の授業において、消費行動がどのように生産者、販売者、輸入元の経済、社会、環境問題に影響しているか、学習しよう。 		<ul style="list-style-type: none"> 課題プリントに本自己評価させ、提出させる。